

Lens, André Corneille

Le costume ou essai sur les habillements et les usages de plusieurs peuples de l'antiquité, prouvé par les monuments.

Paris, J. F. Bassompierre, 1776. (文献番号 3-77)

Hiler p. 538 Colas 1828 Lipperheide 105

ラーンス著

服装または遺跡に基づく古代諸民族の服装と慣習に関する随筆

古代の遺跡、主にその彫刻をもとにして古代諸民族の服装と慣習を調査し、さらに文献によってその事実を考証した著作である。411頁の本文は6部から成り、それぞれ古代エジプト、古代ギリシア、未開諸民族、ヘブライ、古代ローマ、エトルスクを扱っているが、中でもギリシア、ローマに多くの頁をさいている。内容は男女の服装を中心に、武装、武器、宗教、結婚、葬儀、服喪などの慣習、遊び、楽器、家具、道具、建築、装飾などと生活に関する多岐の分野にわたっている。参考にしてしている文献には主題と同時代である古代の記述、例えばヴィリギリウス、ホメロス、ホラティウス、タキトゥス、ヘロドトスの著作、及び近代以降のヴィンケルマン、ボッカチオ、フォナロッティ、ブリュインの著作などを含めて約200点に及んでいる。

51頁、160点の図版はすべて筆者自身の原画、マルトナジィ (P. Martenasie) の彫版による線刻銅版画であり、古代遺跡の彫像、浮彫りなどの忠実な描写を意図したものである。

序文において、筆者は「ターバンを巻いた古代の貴族、我々の祖父母の時代の衣装をまとったギリシア、ローマ女性、プロケードの外衣を着た古代ペルシアの僧侶、スイス衛兵に囲まれて処刑され、死に行くカルタゴの女王」といった、古代を主題とした当時の芸術に見られる時代様式の混交に反省を促している。本書はこうした古代の服飾に対する誤解を正し、遺跡という記録をもとにして、正しい認識を広めようとしたものである。18世紀末の古典主義的傾向の反映とみられる。

図・右はギリシア神話のミュケーネ王アガメムノンの像。手にした長いつえは王位を示し、丈の短いチュニックとクラームユスは戦場での服装。またクラームユスを頭からかぶっているのは、娘イフィゲニアを神の犠牲に供した悲しみを物語っている。

